

JART Vision 2040の実現に向けて

上田 克彦

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長

2024年の新春を迎え、謹んで新年の賀詞を申し上げます。

平素は本会事業にご協力いただき、心から感謝申し上げます。本年も昨年同様にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本会は、2023年に「JART Vision 2040 診療放射線技師職の継続と発展」を制定しました。これは、診療放射線技師会の将来に向けた基本方針であり、社会が大きく変化する2040年を見据えた長期計画、4年後までの目標とする中期計画、2年後まで実現を目指す短期計画から構成されております。長期計画に掲げた「国民から求められる新たな役割の獲得」は、技術発展による放射線を用いない画像検査や治療技術においても、診療放射線技師が活躍の場を拡大することを目指します。中期計画では、組織率70%を目標としていますので約4万人の会員数が必要ですが、本会の活動を評価いただけるように、より良い事業を展開し、積極的に広報することなどによって入会を促進致します。短期計画で掲げた内容として、会員のe-ラーニングは2024年4月から全て無料で視聴できるように準備を進めています。また本会事業の全体を通じて言えることですが、事業のスリム化・合理化を検討してまいります。本会としての事業の在り方を見直し、本会にしかできない事業と他学会等ができる事業の整理を進めるなど運営を検討し、事業計画に反映してまいります。詳しくは本会会誌2023年12月号、第39回日本診療放射線技師学術大会会長講演の記事をご覧くださいとありがたいです。



さて、本年4月から勤務医の時間外労働規制も始まり、いよいよタスク・シフト/シェアも本格的に実施しなければなりません。昨年（2023年）は告示研修を受講された方が2万人に近づき、すでに臨床現場において静脈路確保などの新しい役割を実施している施設もございます。新たな業務を行うのは簡単なことではありませんが、さまざまな課題を解決して新たな業務を実施している施設の好事例も共有していきたいと思っております。業務拡大に関するガイドラインについては、日本医学放射線学会（JRS）、日本放射線専門医会・医会（JCR）を中心に各関係医学会と共同で作成し、近日中に公開予定です。タスク・シフト/シェアを安全に運用するために活用いただきますようお願い致します。

本年（2024年）10月31日から11月3日には、沖縄コンベンションセンターにおいて第40回日本診療放射線技師学術大会（JCRT）を日本放射線技術学会と合同で第1回日本放射線医療技術学術大会として開催致します。本大会では、両会がそれぞれ職能団体と学術団体であるという役割の違いを意識していただきたいと思っておりますが、両会の関連性が高い分科会や委員会のコラボレーションした企画を多数準備・計画しています。

来年度事業計画にも提案していますが、股関節撮影時の鉛シールドの廃止については放射線診療4団体連絡協議会（本会、JRS、JCR、JSRT）において、今後、国民に向けての周知を行うために関係学会等にも働き掛けることを決定しております。2年にわたってJSRTと合同のシンポジウムを開催し、日本医学会総会における出展なども行ってまいりましたので、会員の皆さまにもご理解いただき、シールド廃止を進めていただきますようお願い致します。

本年が、皆さまにとって良い年になりますことを祈念して、新年のごあいさつとさせていただきます。